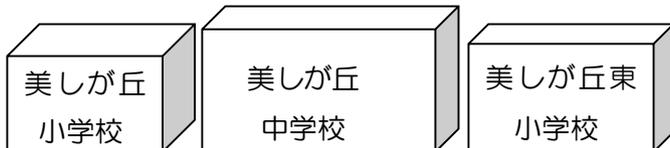


平成24年度より、横浜市立小・中学校では、全142ブロックで「横浜型小中一貫教育」全面的にスタートしました。「横浜型小中一貫教育」とは、敷地や校舎を共有するなどの物理的な条件に関係なく、小中学校教職員が情報交換や連携を通して、義務教育9年間の連続性を図った小中一貫カリキュラムに基づく教育活動を推進することです。このことによって、子どもの学力の向上や児童生徒指導上の課題の解消を目指します。

◆ ◆ 横浜型小中一貫教育 ◆ ◆
美しが丘中ブロック



☆☆美しが丘中ブロック小中一貫教育テーマ☆☆

小中での『児童・生徒指導』の共通した指導の確立

定期的に共同研究会を開催し、情報交換や相互理解をします。

授業を伴った研究会を開催し、指導観や子ども観を共有します。

児童・生徒間の交流を促進し、中1ギャップの解消に努めます。

教員間交流を促進し、小中の教員がそれぞれの学校で交流授業をすることを通して、小中一貫教育の基盤をつくります。

小中9年間の学習内容の連続性・発展性を理解し、美しが丘中学校区の地域性を生かした「小中一貫カリキュラム」を構築していきます。

授業を伴った研究会

11月、1月に合同の授業研究会を行い、小中の教職員が授業観、子ども観を共有し、授業改善をすることを通して、子どもたちの学力の向上を図りました。

人権教育

教職員が人権研修を合同で行い、地域の特性を考えながら、9年間でどのように子供たちを育てていくかを話し合いました。小中で人権標語を作成し、互いの学校で掲示し、人権意識を高めます。

美しが丘中ブロック

小中一貫教育の具体的な取り組みの一部を紹介しま

児童・生徒指導研究会

各校の児童生徒指導、授業の進め方の共通点や相違点を話し合う中で、一貫した指導をすることと切り替えていくことの必要性を話し合いました。



児童・生徒間交流交流

6年生による中学校の合唱コンクールリハーサル見学(10月)、中学校の授業参観(2月上旬)、部活動体験(2月中旬)など児童・生徒間交流を促進し、小学校高学年と中学校とのスムーズな接続を図ります。